

## 第73回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成30年10月29日(月) 午前10:00～11:30
2. 開催場所 COM倶楽部会議室(箕面市船場東2-5-47 COM3号館5階)
3. 委員の出席 委員総数 6名
- 出席委員 5名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、桑田政美、高谷和彦  
神垣美代香、中川弘佳
- 欠席委員の氏名 須貝昭子
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治(取締役統括部長)  
大平麻由美(編成課長)  
野間 耕平(編成課員)
4. 議 題 1) 番組 ロックオン!ユアボイス(番組「タッキーBOX」内のコーナー)  
2) 審議  
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

## 6. 審議内容

### 1) 番組

#### (1) 事務局より番組説明

箕面のあちこちで出会った人の声を「ロックオン=録音」して、ラジオでご紹介します。いきなりマイクを向けられてもしゃべりにくいので、毎月テーマを決めて、その質問に答えてもらい、そこからいろいろなお話を伺っています。

<放送履歴>2017年4月～(2018年9月末まで76回、157人にインタビュー)

<テーマ例>「無人島に一冊持っていく本」「2018FIFAワールドカップ大予想」

「大阪北部地震。そのときあなたは…」

「ドラえもんのボーイズキャラ、つきあうとしたら？」など

※最近では投票用紙(シールを貼り付けて投票)を用意し、インタビューする人以外にも、多くの人に参加できるよう工夫しています。毎月、最終週に結果発表を行っています

9月のテーマは「上司にしたい天下人」として、信長・秀吉・家康から一人選んでもらうという趣向でインタビューしました。通常はアポなしですが、歴史がテーマということで、高校の歴史系のクラブへのインタビューを検討し、関西大倉高校の地歴・旅行部にご出演いただきました。

「どうすればリスナーを増やせるか」という課題に対する一つの解答として企画しました。道行く人を呼び止めてインタビューし、「〇月〇日の〇時から放送」と書いたちらしを必ず手渡します。放送時間をしっかり伝えることで、聴いてもらいやすくなると考えています。また、インタビューしたかたの写真と記事をブログで紹介しています。

インタビュー後に、番組表と「まちの情報箱」も渡して、タッキー816に興味を持ってもらえるよう努めています。「そんな放送局があったの？知らなかった」「じゃあ一度聴いてみます」といった声や、放送後にご本人から「聴きました。ありがとうございます」といった電話がかかってきたこともあります。

今後も、新しいリスナーの開拓に努めるべく、企画を続けていきます。

## (2) 審 議

委員長：事務局から番組説明がありました。それではさっそく番組審議をお願いします。

委員 A：なかなか面白い企画でいろいろなジャンルでテーマを決めて聞いていくと、いろいろなかたが答えてくれ、参加しやすいやり方ですね。今の高校生たちは自分の考えをしっかり持っていて、例えばプロ野球ドラフト会議での言葉などを聞いていると、昔では考えられない程の高校生の発言だと思って感心します。今回の、関西大倉高校の生徒さんたちも、歴史上の人物についてしっかり勉強しているんでしょうね。すごくフレッシュな感じを受けました。放送の意図である「どうすればリスナーを増やせるか」については、私が所属する団体でも、スーパーなどの前でちらしを配布し広報活動をしています。1対1でちらしを渡すということが、強烈に印象に残ります。無視するかたもありますが、知っていますというかたもいて、毎年手ごたえを感じています。タッキー816 もまだまだ知らない人は多いし、滝道で公開放送を実施しているときは、箕面駅前では実施していることが全く分からなかったのも、駅前でちらしを配って公開放送があるということを伝えれば、興味を持つ人も出てくるのでは。地道な活動ですが、そこから知っていただくという意味では一番いいのではないかと思います。

委員長：取材方法は、ちらしを配りながら、道行く人にインタビューしていくのですか。それともグループなどに先にテーマを伝えて取材に行くのでしょうか。

事務局：両方です。大部分がアポなしで、いきなり声をかけています。

委員 B：歴史が好きなので聞き入ってしまい、興味深かったです。今回インタビューされた地歴・旅行部のみなさんがマニアックというか内容が濃くて、知識が豊富で、例えば福岡についての話でも「そうだったのか」と感じるどころがあり、自分もそこに旅行してみたいと思わせてくれました。いい内容だったと思います。質問や受け答えもめりはりがあって聞き取りやすく、10分間が短く思えるほどでした。また高校生だったというのがポイントだと思います。そこまで勉強しているの？とか、そこまで深いことが言え

るんだ、と驚きがあり、それをうまく引き出していました。今の高校生や学生のイメージは、携帯や SNS ばかりかと思いがちですが、私たちよりも深い知識を持っている、そういう部分を引き出していたし、他の内容でもまたやってほしいと思いました。放送意図もいいと思いますし、どうすればリスナーを増やせるかは、今後もずっと継続していく課題だと思います。ちらしも必要だし、SNS も重要なツールです。そういう中で、UP していくことは大事だと思います。箕面でがんばっている人はたくさんいますが、今後は「カルチャー」をがんばっている人をどんどんピックアップしてはいかがでしょうか。「文化」というと少し重くなってしまうのですが、若い人たちの「カルチャー」を取り上げれば、興味を引けるのではないかと思います。「文化」も「カルチャー」も意味は同じですが、若い人に聴いてもらえると思います。

委員 C：リスナーを広めていくという意味では、大変いい発案であり、いい番組です。これを原稿なしで、詰まることなく説明できる高校生、すごいですね。意見もきっちりまとまっていて、イメージしていた高校生と全然違いますね。一番人気のあったのが信長というのがどうも腑に落ちないというか、「泣かぬなら殺してしまえ」の人なのに…としましたが、トータルで見ると接戦なので納得しました。これ自体を取り出して聴いてみると、高校生が作った番組でもこれくらいはできるかな、と思います。同じテーマで年代層を変えて質問していくと、老人も行けるし、リスナーの幅ももっと広がるでしょうね。その辺り、テーマを工夫して幅広く持って行ける番組だと思います。

事務局：補足ですが、地歴・旅行部の高校生たちは、質問に対し受け答えが即座に返ってくるところがすごいと思いました。例えば一人目のかたに「一番好きな歴史上の人物は」とその場で聞いたところ、すかさず答えが返ってきて、インタビューした 3 人が 3 人とも、違う形で「私はこの人がいい」ということを、理由も付けてしっかり答えてくれました。とりわけ優秀な人たちで、歴史に興味があって積極的に活動しているということが感じられました。それがよくインタビューにも表れていると思います。

委員 D：二つに分けて考えました。一つは番組の意図ですが、これまではインタビューしっぱなしということが多かったと思います。それに対して、ちらし

を渡したり、放送日時をしっかりと伝えているところが、ベタではありませんがコミュニティ放送ではぜひやってほしいと思っていることを、ちゃんとやっているところに非常に感心し、どんどん広げていってほしいと思います。先ほどの委員のお話にもありましたが、ちらしを手渡したりすることで、いろんなことを聞かれたりして、潜在リスナーとのコミュニケーションもできると思います。ちょっとずつそういうことをやりながら、せめて地域で7割くらいの知名度を持っていくと、何でもしやすくなります。今はまだ1～2割ぐらいでしょうか、まだ聴いたことがないという人も、特に若い人に多いのではないかと思いますので、そういう意味では積極的にちらしを渡していくのはいい方法だと思います。もう一つは中身についてですが、ぽんと好きな人物について聞いたときにすぐ答えが返ってきたのはすごいと思います。アポを取る際に概要は伝えているはずですので、街頭などでいきなりインタビューする場合とはまた違ってくると思います。審議用の資料としては、そういった街頭での場合も加えていただきたいかったです。個人的なことですが、私も高校生のときに自分で「ユースホステル部」というのを立ち上げて活動していたので、今の高校生も同じようなことをやっているんだなと感慨深かったです。もう一つ言わせてもらえば、中高一貫校で中学生の部員もいたということで、インタビューは高校2年生ばかりでしたが、中学生の部員の声も聴くことができればよかったです。

委員 E：大変面白く聴かせていただきました。今どきの若者、特に高校生の感性で歴史を語るという内容は、もっと浅い感じの意見だろうと思っていましたが、けっこう核心を突く内容を、さらっと自分なりの解釈で説明できるのは、さすがに「地歴・旅行部」の知的センスだと感じました。「女子高生」というより「歴女」にふさわしい女性たちの発言は大変興味深く、あっという間の時間でした。聞き手もリスナーが感じたであろう気持ちで、突っ込んだり聞き返していたりといったやり取りは面白かったです。インタビュー先を「地歴・旅行部」に選んだ理由なども聞きたいです。以前も高校生の番組は面白いと感じましたが、高校生の感性は聴く者を惹きつける魅力があり、いろんな活動を紹介してもらいたいと思いました。彼ら高校生とシニア層との世代間的な番組も楽しいと思います。

事務局：「地歴・旅行部」を選んだのは、歴史をテーマにしたことからで、これまで

取り上げられなかった、特に若い世代とのつながりを期待しました。歴史系のクラブがあるのは、近隣で3校あり、その中でホームページの印象が一番活発だったのと、これまで職場体験で生徒を受け入れていたつながりもあったことから、声をかけさせていただきました。

委員長：統計を取りながら資料として分析しながら、割合がどうかとか、それが資料にもなります。だから、訪問する学校、それから中学生、高校生、街を歩いている人にも、場所を変えながらずっと統計が取れるように、こうした資料を残しておくとうろしいと思います。テーマを決めて出すと、答えやすい。それから上手に他の話題を、いろんな話を引っ張り出して全体の中に入って行くというやり方は確かにいいと思います。相手かたも話しやすいと思いますし、一声話すとそこからどんどんコミュニケーションが広がって、素に戻って話ができるのを資料として集めて行くのが大事だと思います。ただ一つ気になったのが、せつかくいろいろな話を聞いたり引き出したりまとめるには、10分は短いのでは？目的を達しきれず中途半端に終わっている感じがしました。

委員長：インタビューの中でやりとりしながら、みのおエフエムを知っているか、聞いたことがあるか、と聞いていると思いますが、知っている人の割合はどれくらいでしたか？

事務局：そうですね、半分くらいは知っているかなという印象でした。ただ、取材先が公共施設が多かったため、市民活動をしているかたが多く、それで知ってくださっているのかと思いました。公園などでインタビューした、赤ちゃん連れの若いお母さんなどは「知らなかった」という答えが多かったです。

委員 C：この番組、聴けば面白いのですが、それを「あれを聴きたい」にするためには、ものすごく上手くテーマを絞っていくことが大事だと思います。

委員長：そうですね、あまり堅苦しくてもいけないし、しょうもないテーマでもダメなので、テーマ決めは難しいですね。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日

なし

8. 審議機関の答申又は意見の概要の公表

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://company.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 30 年 10 月 29 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会